

(下線は更新点を示す。)

平成 27 年 6 月 29 日

(7 月 3 日 更新)

動 物 衛 生 課

【OIE 情報】 アイルランドにおける牛海綿状脳症 (BSE) の発生について

アイルランドにおける牛海綿状脳症 (BSE) の発生について、OIEへ緊急報告がありましたのでお知らせいたします。

なお、アイルランドから輸入される牛肉等については、食品安全委員会によるリスク評価結果を踏まえ、条件を設定しています。

また、OIEへの報告をうけ、2015年6月26日より、アイルランドはOIEの「管理されたBSEリスク」ステータスとなりました。

※動物衛生課注：

6月29日時点では、当該動物が1回目に倒れた日付は2015年2月24日と報告されていましたが、7月3日に確認したところ、2015年3月6日に修正されていました。

出典：OIEウェブサイト

・ 疾病発生状況 (2015年6月26日付け)

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=17998

・ BSEリスクステータス

<http://www.oie.int/animal-health-in-the-world/official-disease-status/bse/lossreinstatement-of-status/>

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・ 発生数：1件 (緊急報告、終報)
- ・ 発生日：2015年3月6日
- ・ OIEへの報告日：2015年6月26日

【発生状況】

・ アイルランド ラウス州 ダンドークの農場

【動物種】	【感受性動物数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
牛 (Rotbunt種*の乳牛群)	289	1	0	1	-

※動物衛生課注：Rotbunt種 (Meuse-Rhine-Issel (MRI) ともいう) はオランダ及びドイツ原産の中型の乳用種で、毛色は赤及び白である。アイルランドへは1970年代初頭に輸入された。

【疫学情報】

- ・ 感染源：不明または調査中
- ・ 6月9日、農業・食料・海洋省 (DAFM) は管轄当局によって認可された民間研究所で実施された迅速診断検査 (Idexx EIA、酵素免疫測定法) の結果、陽性を確認した
- ・ 問題の検体は、48か月齢以上の全ての死亡 (農場での死亡) 動物に対し実施中の公的サンプリングの一環として、廃牛処理場においてDAFM職員により採材された
- ・ 採材された材料及び脳は、異なる脳の部分を用いてOIE認定ウエスタンブロット法 (Biorad TeSeE) を利用した確定診断を実施するために、国立リファレンス研究所 (NRL) へ送付された
- ・ 加えて、検体はBSEのタイプ分類のために2-ブロットプロトコールに供された
- ・ 全ての検体が定型BSEを示す分子パターンと一致した

- ・ NRLのプロトコールに従い、当該動物の検体はOIEが定めるBSEの確定診断法である脳髄質の組織学的検査及び免疫組織学的検査に回された
- ・ 加えて、検体は英国・ウェーブリッジにあるEUリファレンス研究所にも送付された
- ・ 定型BSEの確定事例であるという最終確定診断の結果は、両研究所から6月25日に届いた
- ・ 当該動物は2010年1月14日生まれの雌のRotbunt種であり、死亡時には65か月齢であった
- ・ 当該動物は出生以降の全ての期間、同一農場で飼養されていた
- ・ 当該農場主は、当該動物が2015年3月6日に倒れたが、回復したと報告した
- ・ 当該動物は2015年6月6日に再度倒れ、回復しなかったため、農場主はこの動物を安楽殺することを決断した
- ・ 死亡する約6週間前に、当該農場主は、この動物の身体状態の悪化及び乳生産量の減少並びにこの動物が神経過敏や過度の興奮といった神経症状を示していたことに気づいていた
- ・ 感染動物の母牛及び祖母牛は、それぞれ2006年と2013年に健康動物としてと畜される際にBSE検査を受けており、両頭とも結果は陰性であった
- ・ 「コホート群」として陽性動物と同じ年（2010年）、前年（2009年）及び翌年（2011年）に同じ群で生まれた動物を同定し、63頭が生存していた
- ・ この目的は、陽性動物と同じ飼料を給餌された動物を同定することである
- ・ 陽性牛の産子に関しては、4頭全てが同定された
- ・ 全ての産子及びコホート動物は同定され、追跡され、移動制限された後、2015年6月22日にと畜された
- ・ これらの動物からの検体は全てBSE検査に供され、67頭全てについて陰性であるとの結果が6月23日に届いた

【対応】

- ・ 隔離
- ・ 選択淘汰
- ・ 発生に応じたワクチン接種は未実施
- ・ 患畜を治療対象としない

【診断】

- ・ 診断施設：IdentiGEN（民間研究所）
- ・ 診断方法：酵素免疫測定法（EIA）：陽性（2015年6月9日）
- ・ 診断施設：中央獣医研究所（国立研究所）
- ・ 診断方法：ウエスタンブロット、組織学的検査、免疫組織学的検査：陽性（2015年6月10日、25日）
- ・ 診断施設：英国動植物衛生庁（OIEリファレンス研究所）
- ・ 診断方法：ウエスタンブロット、組織学的検査、免疫組織学的検査：陽性（2015年6月25日）

【参考】発生地図

